

# COLUMN 1

コラム 1

## 開発途上国の評価能力の向上 (キャパシティー・ビルディング)に貢献

**円** 借款事業を効果的かつ効率的に実施するためには、事業の実施主体である開発途上国政府や実施機関の能力向上が不可欠です。当行では2001年度から「JICA連携ODAプロジェクト評価セミナー」を開催し、開発途上国側で評価を担当する部署等の職員を対象とした研修を行っています。02年度は18カ国19人、03年度は17カ国17人、04年度は17カ国17人を招き、当行の評価体制や評価手法(DAC評価5項目、PDM等)の紹介、経済・財務分析、ケーススタディなどを通じ、研修生の評価能力向上を支援しました。また、当行の「評価

テキスト」も教材として活用しています。セミナーの成果として、研修生によってそれぞれの担当事業への評価の適用、所属組織への普及等に関するアクションプランが策定されました。当行はそれらが実現されるよう、開発途上国との合同評価等のフォローアップ活動によって継続的な支援を行っています。



セミナー後の懇親会。研修生からは、「セミナーを通じて公共部門における事前・事後評価の重要性を学ぶことができたうえ、日本の文化や考え方に触れることができ、大変有意義だった」との声が聞かれた。

## 貧困削減に関するJBICの知見・経験を 国際社会に情報発信

**2** 004年5月に世界銀行主催「上海スケーリングアップ会合」(開発途上国の国家元首、政策立案者、援助機関、学界、市民グループ等約600人が参加)が開催され、当行も同会合に参加しました。同会合では、貧困削減の成功事例を通じて、国、地域、地球規模の各レベルで、政策・開発計画や開発事業が貧困削減を効果的に達成するための要因について議論や分析が行われました。当行は、経済インフラが貧困削減に寄与した事例として、「ベトナム:北部交通インフラ事業」や「フィリピン:農地改革インフラ支援事業」等の評価結果の発

表を行いました。このように、当行はこれまでの事後評価等を通じて蓄積してきた貧困削減に関する知見や経験を国際社会に発信するとともに、開発途上国の貧困削減に対する当行の貢献についても、国際社会から評価を得られるよう努力しています。



参加者から貧困削減の成功事例が報告され、貧困削減を効果的に達成するための要因(貧困層の市場経済や社会への参画、組織改革等)について、活発な議論や分析が行われた。

## 事後評価結果のフォローアップ ～評価結果に基づく支援～

**イ** ンドの「アラバリ山地植林事業」は、インド北西部ラジャスタン州に位置するアラバリ山地の森林回復と、それに伴う地域住民の生活水準向上を目的として1992年から2000年にかけて実施された事業で、総面積約15万ha(東京都の面積約22万haの約7割)の植林等が行われました。事後評価では、植林、雇用創出、野生動物の生息環境保護等の主要な目標は達成されたとの良好な結果が得られましたが、他方で持続的な効果発現には住民が継続して事業に参加していく必要があるとの提言が出されました。そのため、当行では援助効

果促進調査(SAPS)を実施し、州森林省に対して「森林管理計画を整備するとともに、森林組合の婦人部を育成する」「NGOとの連携ガイドラインを準備する」等の提言を行いました。これは、SAPSの中で、当行が植林事業を支援しているインドの他の州とラジャスタン州との交流がなされた結果です。



住民の事業への参加が持続的な効果発現の鍵となる。